

ヘルスケア商品における「自律」 を主眼に置いたプロセス改善

～STE/SEPG/SQA 三位一体のプロセス改善～

オムロン ヘルスケア 商品開発統轄部 開発推進部
伊達 渡

「人財育成」のゴールは？

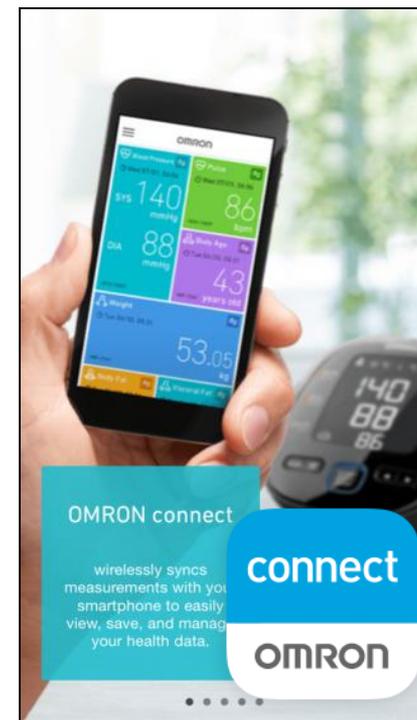
- 1 : 背景と課題
- 2 : 人財育成
- 3 : 取組
- 4 : 結果
- 5 : まとめ

我々の商品のソフト開発は、**小規模多種の家庭向け機器**
近年アプリ・クラウドにつながる商品開発が増えてきた

小規模・多種

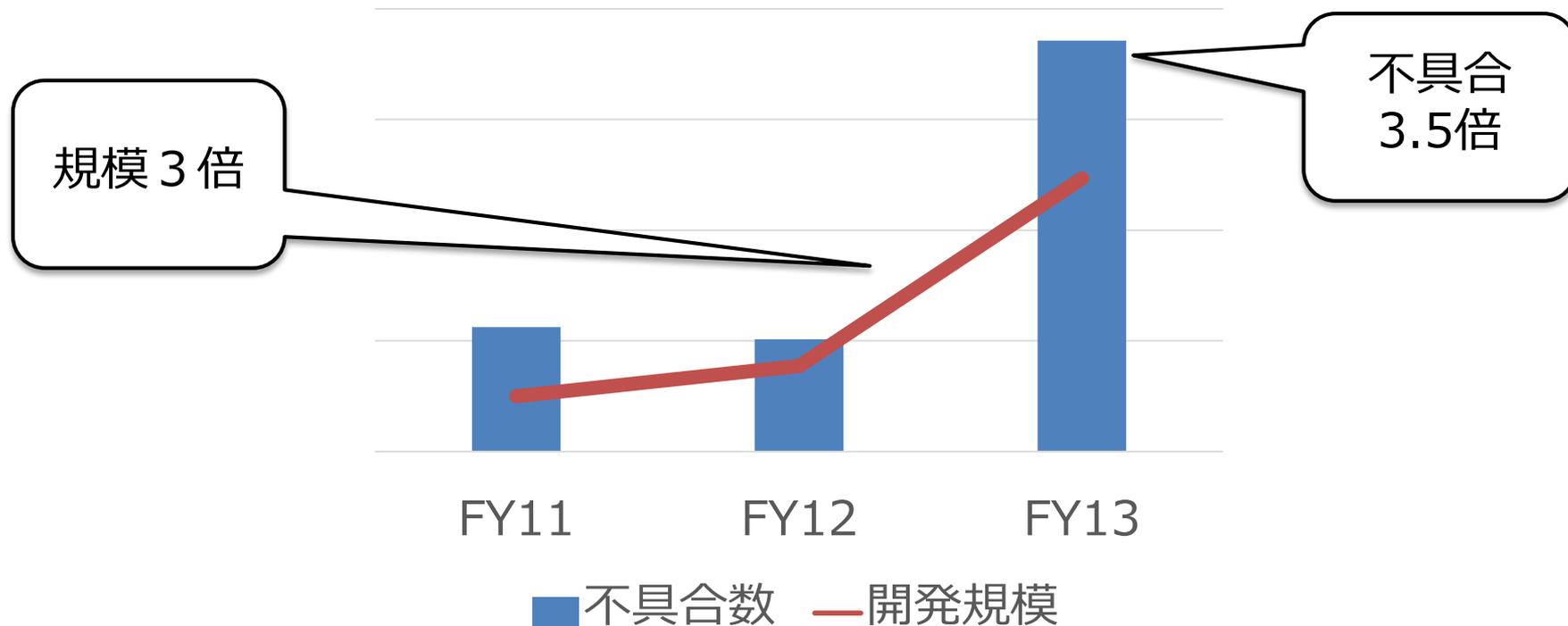


大規模



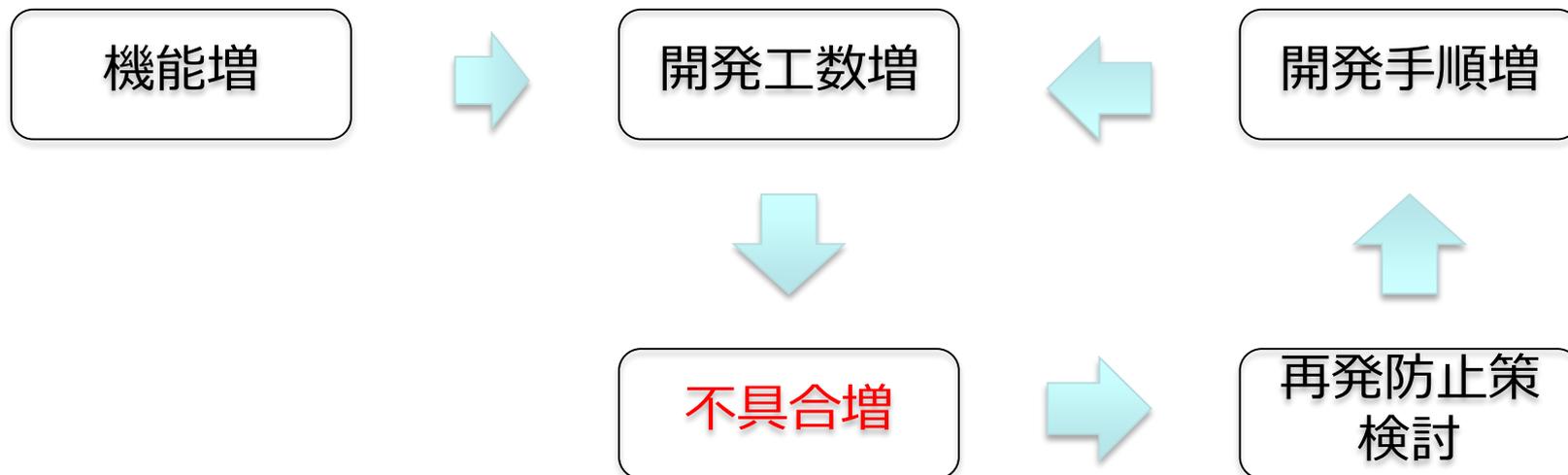
つながる機器による開発規模が増えてきたことにより、不具合が増えていった

不具合数と開発規模の推移



再発防止の手順改定を行うが、**手順改定**だけでは、不具合が止められなかった。

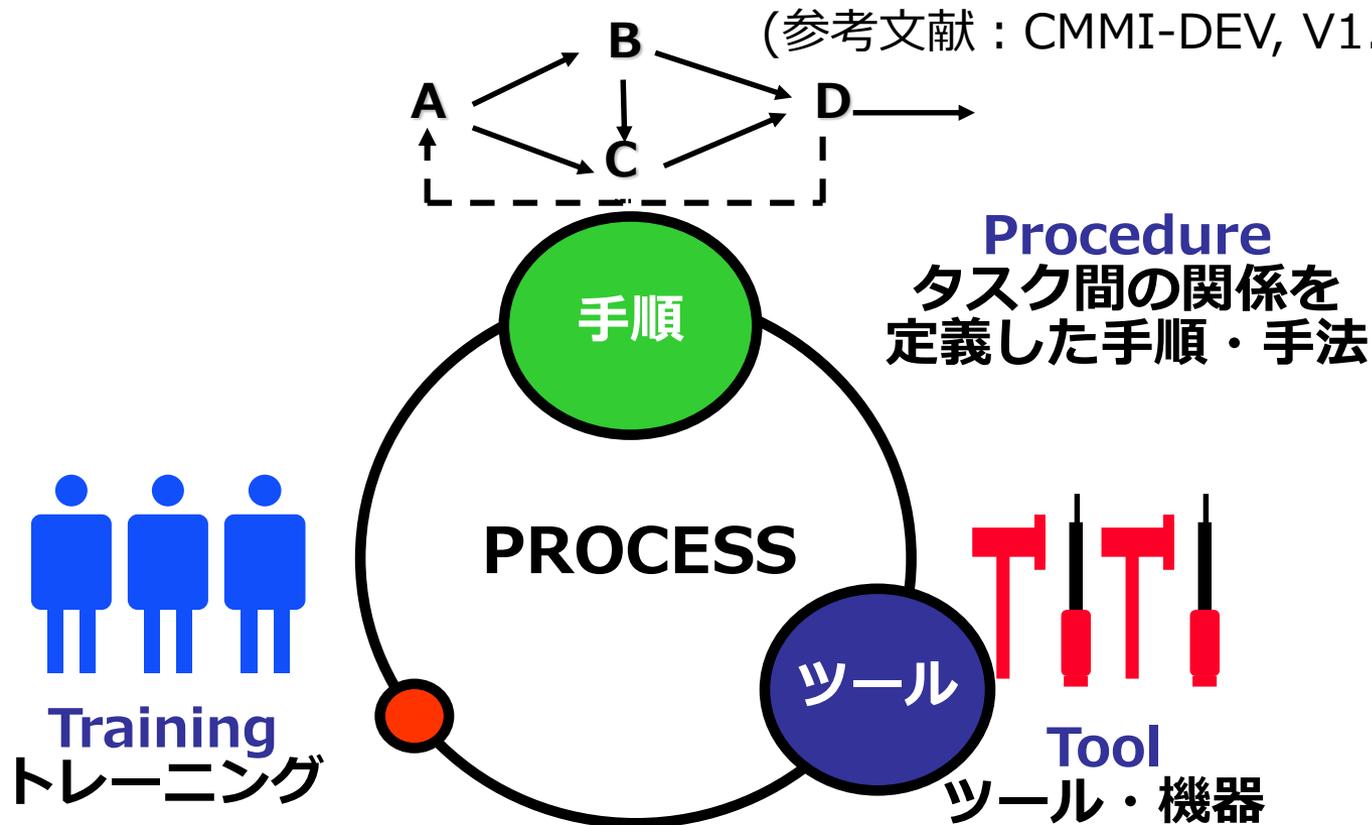
不具合数・開発工数・手順増のフロー



いままでの改善は手順やツール改善に努めていた。**人財育成不足**こそが不具合を生む原因

プロセス改善において組織が典型的に焦点を合わせる3つの重要な側面

(参考文献：CMMI-DEV, V1.3 図1.1)



「人財育成」のゴールは？

「自律」

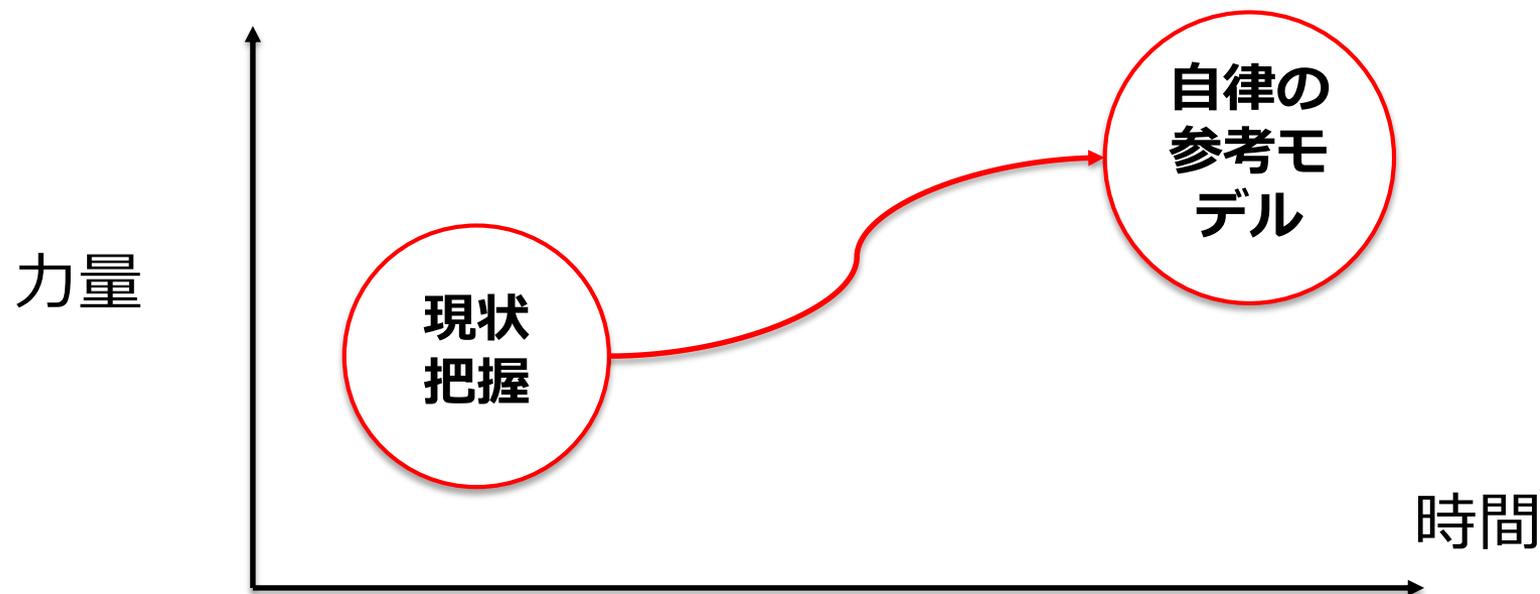
なぜ自律？

(Bad)	→	(Good)
・ 指示待ち状態	→	(自ら行動し) 仕事を率先する
・ やらされ感	→	(自責と挑戦) わくわく感
・ 変化に対応できない	→	(状況判断し) 変化に順応

自律人財育成のポイントは、3つを定めること

- ①「自律の参考モデル」
- ②「自律の現状把握」
- ③「自律の育成方法」

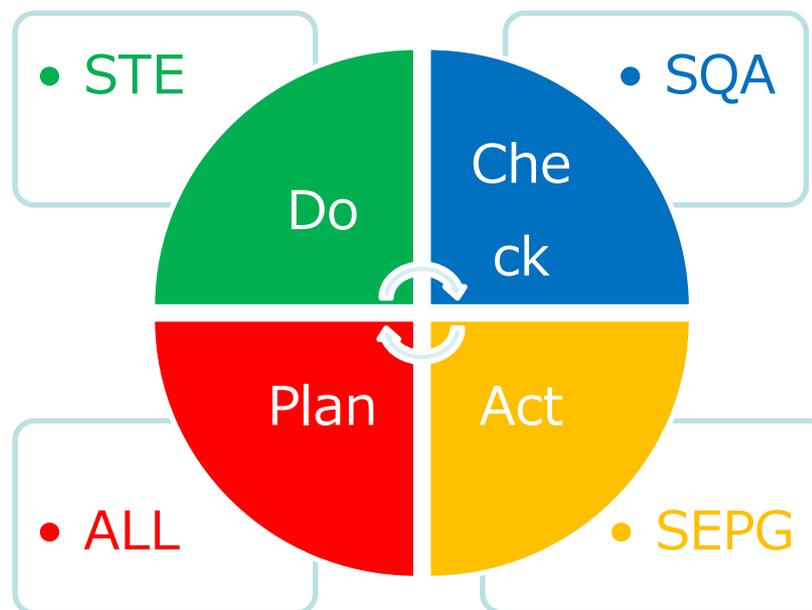
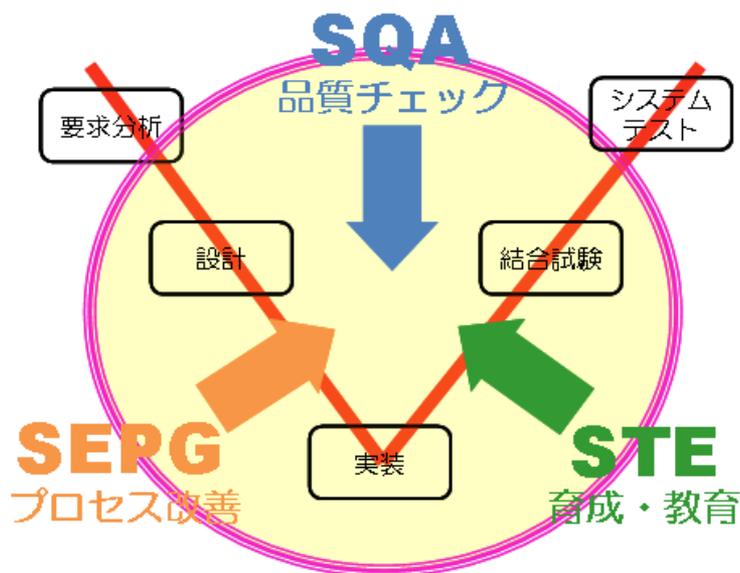
人財育成のポイントのとらえ方



開発者の中から「できる人・あこがれの人」を選んでもらい、その方を「先生」とし、人財育成を行う。

→STE (Software Technical Education)

SEPG/SQA/STE の役割とロゴ作成



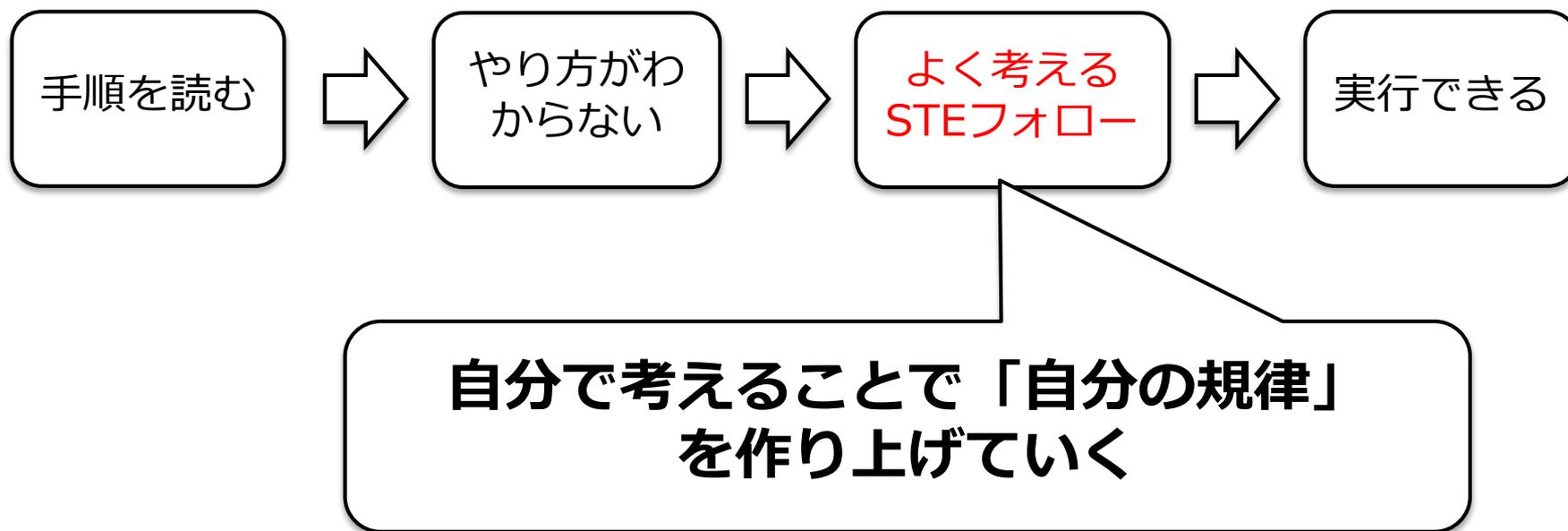
現状把握を「**守破離での力量表定義**」を行い、全員に級認定を行う。(STEが級認定)

守破離の内容と級の関係

スキル	守	破	離
	指導を受けながら1から 丁寧 に作業を行い成果を出す	作業をできつつも、 自分なりの変化 をつけ、より良い成果を出す	独自に仕事のやり方 を作り上げ、さらに良い成果を出す

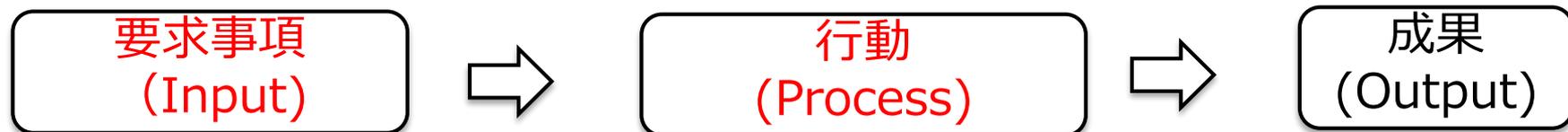
自律の育成方法は「考えさせる」ことが重要。

「考えさせる手順書」を作って**考えながら**仕事をする



「考えさせる手順」とは、「行動」を考えさせること

今までの手順と「考える」を足す手順の関係



From

開発計画

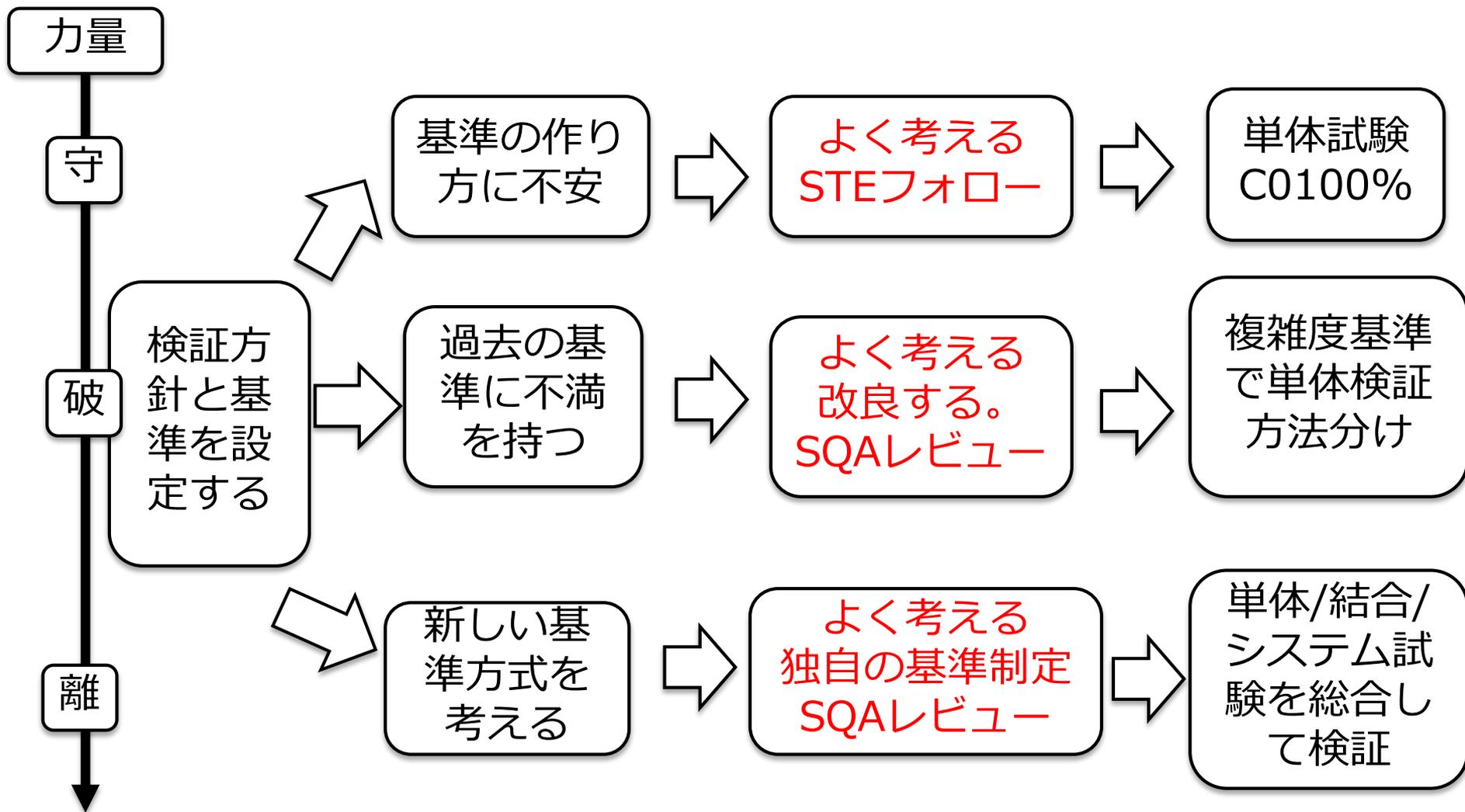
- ・ 成果物の決定
- ・ ゲートの設定
- ・ 品質基準の設定

- ・ ○○成果物を作成
- ・ ウォーターフォール手順
- ・ レビューを4回以上実施する
- ・ レビュー工数○○以上
- ・ 単体試験C0カバレッジ100%

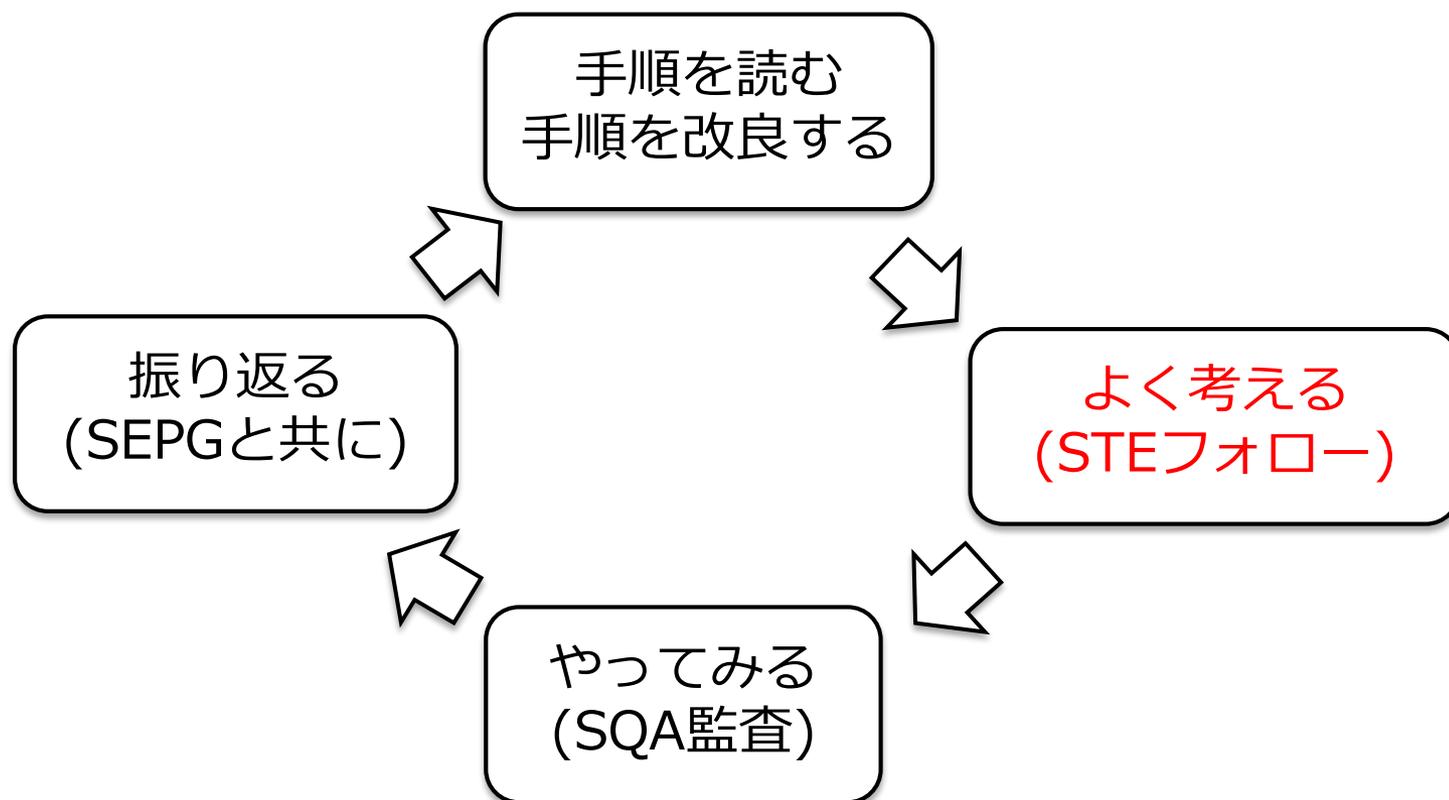
To

- ・ 必要な成果物の観点は○○
- ・ 各部門で調整して手順を記載する
- ・ ○○の観点をレビューを受ける
- ・ 品質基準は各プロジェクトで定める

この手順を実際に行うと、力量によって差が出る



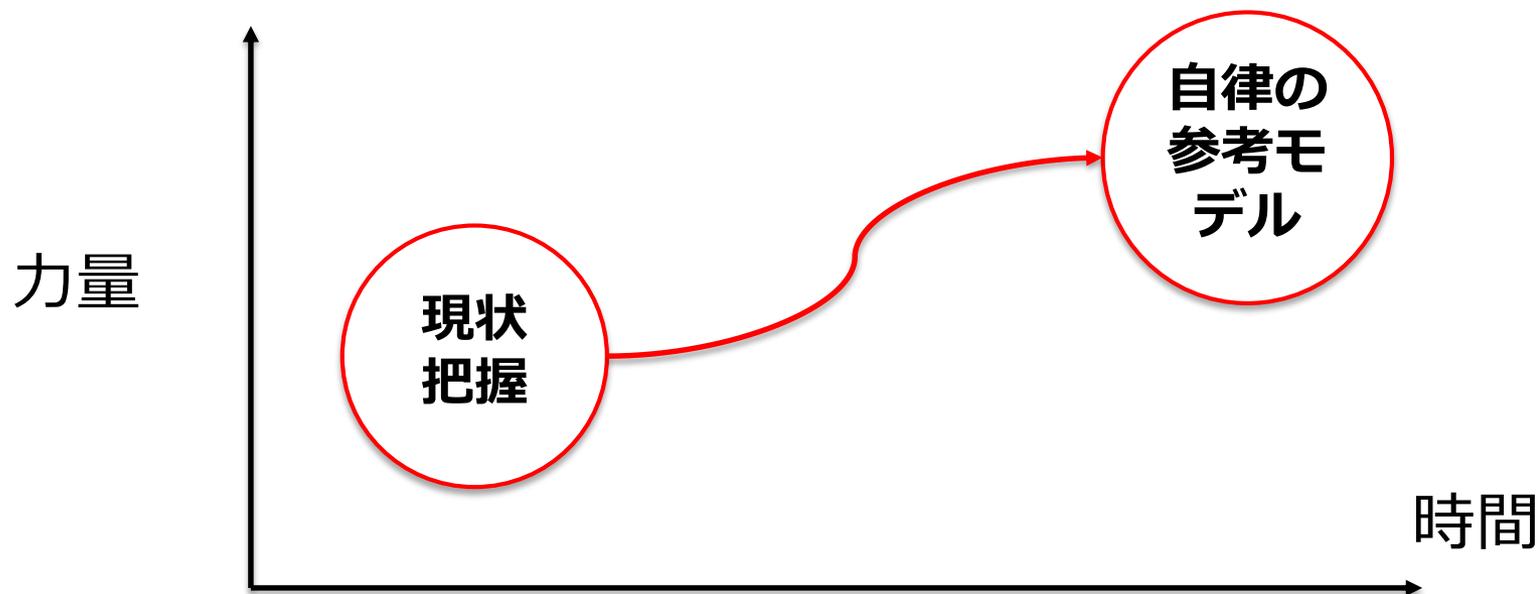
このように、「考える手順」を実行することによって「自分の規律」を作り上げていき、やがで、自律人財に育成される。



自律人財育成のポイントは、3つを定めること

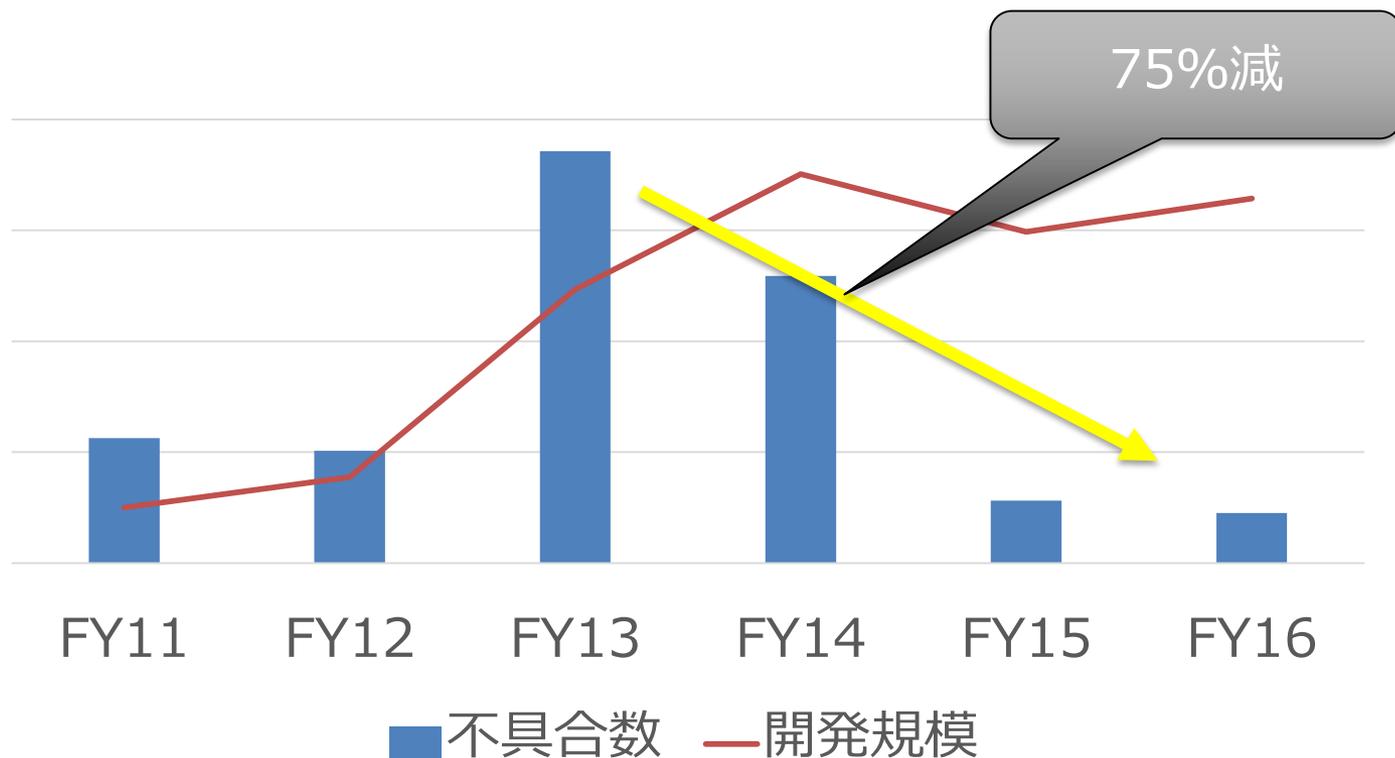
- ① 「自律の参考モデル」 → 「自律モデル STE」
- ② 「自律の現状把握」 → 「守破離の教育目標」
- ③ 「自律の育成方法」 → 「考えさせる手順書」

人財育成のポイントのとらえ方



開発者がスキルアップし、力量を身に着けることで、開発規模は増えていったとしても不具合数は減少した

不具合数と開発規模の推移



「人財育成」のゴールは？

「自律」

ご清聴ありがとうございました

以上